

南阿蘇の農産物 海外販売へ連携

熊本と東京の企業

農業ベンチャー（新興企業）の「肥後市場フーズ」（熊本市中央区）は、農水産物輸出会社「We Agri（ワイ アグリ）」（東京）と業務連携し、南阿蘇村の農産物の海外販売に乗り出す。村役場で両者と意見交換した吉良清一村長は、「大いに進めてほしい」と期待感を示した。

肥後市場フーズは昨年秋



意見交換後、手を重ねる（左から）永守社長、吉良村長、福永社長

に開業。「生産者のパートナー」をモットーに、県産の米や野菜を県外のレストランなどに販売している。We社はシンガポールなどへの農水産物の輸出を手がけており、有機農業に代表される村の農産物に着目し、海外での展開に向けた連携を呼びかけた。

吉良村長は8日の意見交換で、草原が育んだ地下水を用いる農業の魅力をアピール。We社の親会社「テックファームホールディングス」の永守秀章社長は、「南阿蘇の作物は素晴らしい。『阿蘇』という知名度もある」と応じた。

肥後市場フーズの福永博之社長は「販路に困って廃業を検討する農家もいる。輸出で地域活性化につなげたい」と話した。